



野外では国際色豊かな16グループからの歌唱、楽器演奏、民族舞踊、ポップダンスなどの披露があり、会場からは歓声が上がった。

野外では国際色豊かな16グループからの歌唱、楽器演奏、民族舞踊、ポップダンスなどの披露があり、会場からは歓声が上がった。...

26回目を迎えたこのエキメニカルな集いは、毎年「外国人が暮らしやすい社会は、日本人にも暮らしやすい」というスローガンを掲げている。...

第19回教区典礼研修会 新しいミサ曲を学ぶ

10月23日(日)14時から、第19回大阪教区典礼研修会がサクラファミリアで行われた。講師はカトリック中央協議会典礼委員会秘書の宮越俊光氏。

オルガニストの三浦優子さんの協力のもと、3年ぶりの公開での開催に定員を上回る約120人の参加があった。...

2022年の待降節第一主日から使用が開始されたばかりの『新しいミサの式次第』の経緯や基本方針の説明を受けたのち、同時に発表されたミサの新しい4つの賛歌として用意されたA・B・C3つの旋律の違いの説明を受けた。...

「ミサの賛歌A」の4つの賛歌のメロディは、いずれも「Kyriele」というグレゴリオ賛歌のミサ通常式文集の旋律をもとに作られたそうで、楽譜には音符の棒や旗がなく、白黒のたま(譜頭)だけの楽譜となっている。...

後半では、いわゆる「歌ミサ」の旋律が紹介され、A・B・Cの3種類用意されたうちの「式次第A」を皆で歌ってみた。こちらは、信徒はもちろん司式司祭の練習も必要と思われるので、時間をかけて作り上げられていくのだろう。...

10月16日(日)、秋晴れのもと、「International Day(旧・国際協力の日)」が開催され、大阪カトリック聖マリア大聖堂では3年ぶりに教区の国際ミサが行われた。...

コロナ感染症対策のため、ミサへの参加はやむを得ず、大阪北・南地区と外国人共同体に限定し、事前に整理券を配布。...

を挙げ続けて祈るモーセを横で支えていた人に言及(出エジプト記17・12参照)。International Dayでキリストの体として集う私たちは互いのために祈り、支え合おうと呼びかけられた。...

「共に生き、共に生かし合う社会」の実現に向けて！実現するまで毎年署名(今年度分は2023年1月10日まで)をステージに立つて参加者に呼びかけた。...

INTERNATIONAL DAY 2022 祈りを支えてくれる人



ような形でいずれ発行されるだろうとのことだった。最後に行われた質疑応答では「コロナが収まり、歌える時が来ても、祈りのことばと同時に歌まで変われば、そちらに気を取られて祈りどころではなくなるのでは？」という不安の声も聞かれた。...

今回の研修会は、これまで惰性的に唱えたり歌ったりしていたミサでの祈りのことばの意味を、改めて見直す良い機会になった。(文 典礼委員会)

講演の動画はこちら http://osaka.liturgy.jp



12 2022

発行所 大阪府中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会...

本紙 「点訳版」「音訳」あります。ご希望の場合は下記まで申込み...

- ☆ 地区養成チーム代表者会議 (2面) ☆ ラジオ「信仰の時間」戸村晴美 (3面) ☆ 青年と子どもの錬成会 (4面) ☆ 司牧者から若者たちへこの一冊 (4面) ☆ シナピス・センター長のメッセージ (5面) ☆ 世界平和に向けて祈り続ける (6面) ☆ 聞かせたい、神さまと出会った時のこと (6面) ☆ カチキムの学び ☆ 生きろー難民移住者 (7面) ☆ カチキムの学び ☆ 生きろー難民移住者 (7面)

『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

教区本部事務局 職員募集 福音宣教に協力し、一緒に働いてくださる職員を募集します。【職務内容】一般事務 【歓迎するスキル・経験】ワード・エクセル・語学などが堪能な方 【待遇】当法人規程による/社会保険等有 【採用時期】要相談 【試用期間】3ヶ月 【応募方法】12月23(金)までに履歴書を郵送ください。選考は書類審査の後、面談を予定しています。 【問合せ】TEL:06-6941-9700(閑蔵) (平日のみ午前9時~午後5時)

新コラム投稿募集 (800字程度+写真1枚) ①か②のお題を1つ選び、『大阪カトリック時報』宛にお名前、所属教会、連絡先記載の上、メール・郵送・FAXのいずれかで応募ください。 ①「わたしの教会のいいところ」 所属教会のお宝・自慢できるところを紹介 ②「ちょっとイイ話」 教会や家など身近にあった心温まるエピソード紹介

地区養成代表者会議 コロナを越えて シノドスへ

10月1日(土)、サクラファミリアで地区養成代表者会議が行われた。使徒職養成委員会から7人、8つの地区からは合計12人が集い、教区における使徒職の養成について話し合った。

会議の前半は「コロナ禍における教会活動(信仰養成など)の難しさや気づき」を議題に、地区を基に3グループに分かれ、参加者でわかった。

「参集できない寂しさや苦しみが大きかった」「公開ミサに関する告知や理解に困難があった。その中で、繋がりがや連絡の工夫、現状

の見直しなどもなされた」「自らミサ動画を視聴するようになった信徒や配信を始めた司祭がいた」「教会に行けない中で、祈りの場を考える機会を得た」「主日の過ごし方が変化した。生活がだらけてしまう一方で、時間的余裕ができた家庭への意識が高まった」「コロナ禍で教会離れが生じ、

日本人青年が減る一方で、ベトナムなどの外国人青年が増えた」などの気づきがあった。

会議の後半は「シノドスの歩みの中の信仰養成」(カテキズムの視点から)という議題で、酒井俊弘補佐司教による講話があった。

酒井司教はシノドス(世界代表司教会議)に向けた準備の作業が今後、国レベルから大陸レベルへと展開していくことを説明され、大阪ではすでに「新生計画」という形で先取りの歩みがあったことを語られた。

また、コロナ禍にありながらも、教会(ミサ)に人びとが戻りつつある現状や世代の推移を見据えた「使徒職の養成」と「新しい信



地区からの養成代表者の集まりは3年ぶりとなった。

徒の発掘」を考えていく必要性について話された。

この講話を受けて、グループでのわかれあいが持たれ、その後の全体会は質疑応答の場とされた。

枚岡教会 60周年を迎えて 新しく生まれ変わるために



10月25日に献堂60周年を迎えた枚岡教会。記念日に先立ち、23日(日)の9時、酒井俊弘補佐司教を迎えて記念ミサをささげた。

ミサには枚岡教会の信徒をはじめ、同かわちブロックの布施と八尾教会の代表信徒の方、当日出張販売に来た師イエズス修道女会のシスターたちも合わせて、100人ほど参加した。

主司式の酒井俊弘司教はミサの説教で次のように話された。「60年」という歩み——人間でいえば「還暦」を迎える枚岡教会。新しく生まれ変わるよう呼びかけられている。過去を振り返るだけでなく、未来への希望をもって歩んでゆく大切さを話された。

枚岡教会の信徒が書かれた「枚岡教会60周年への想い」が奉納され、共同祈願を日本語、ベトナム語で共に祈りをささげた。この日はちょうど「世界宣教の

日」ということもあり、枚岡教会の門出として、改めて良い出発ができたと思う。

教会の60年の歴史を皆で分かち合えるように、信徒からこれまでの写真を募集し、聖堂に飾った。その時々に見ながら、懐かしい歩みを振り返る方も多くいた。

本年、枚岡教会では「キリスト者になろう」という目標を掲げており、一人ひとりがキリストを宣べ伝える者として、先人たちに倣い、日本とベトナムの方、年配者と子どもたちが手を取り合って、希望を語れるようにしていきたいと願っている。

(文 カトリック枚岡教会)

いずみブロック・垂水教会堅信式 偶然ではない スタートを切る

秋には、いずみブロックと垂水教会の2つの堅信式があった。合計20人の受堅者への豊かな祝福と主の導きを願いたい。



いずみブロック

いずみブロック

10月3日(日)、11時から和泉教会でいずみブロックの堅信式が行われた。主司式は酒井俊弘補佐司教。共同司式は村田稔神父、ロムアルドウス・ジュアン神父、ピエル・ジョルジョ・マンニ神父、グティエレス・ヘルナンデス・イルビン・アロンソ神父。受堅者は13人。コロナ禍で家族と友人に参加制限はしていたが、80人ほど参加することができた。歌は歌えなかったが、お祝いする気持ちで式は厳かに進められた。

「堅信の秘跡はゴールではなく、大人の信者としてのスタート。自分の力にだけ頼らず、謙遜な心で神様に頼っていきましょう」とミサ説教で酒井司教は述べた。

受堅者の記念品には『カトリック教会のカテキズム要約(コンペンディウム)』を贈った。酒井司教からのサインと言葉をもらい、受

主催者の感想

堅者たちも喜んでいました。

今回、受堅者も日本人だけでなく、外国人の受堅者も一緒に与ることができ、リーダーの方々の思いもあり、お祈りや共同祈願など、それぞれの国の言語で行えた事が大変喜ばしいと感じました。

(文 カトリック和泉教会)

垂水教会

10月30日(日)10時、垂水教会で6人の中学生、1人の高校生の堅信式が酒井俊弘補佐司教の司式によって行われた。共同司式は同教会の担当司祭である林和則神父。第一・第二朗読、答唱詩編、共同祈願は受堅者自らが担当した。コロナ禍のため、密を避けるために小教区内8地区のうち4地区の信徒が参加した。

垂水教会は2018年10月実施の前回の堅信式までは、明石・北須磨・洲本とともにブロック合同で行ってきたが、コロナ禍に入っ



垂水教会

てからは各小教区で行うこととされた。そのため、垂水の信徒にとっては何十年かぶりに自教会だけの堅信式になった。

酒井司教も説教の中で、そのことに触れて言われた。「ブロック合同という小教区を超えたキリストの教会のつながりを実感するのによいことですが、子どもたちが小さな時から信仰を育まれてきた自分の属する小教区の皆さんに見守られて、堅信の秘跡を受けることも共同体の恵みを感じる大切な機会です」。

拝領祈願の後のお祝いのセレモニーでは、受堅者の代表が教会の皆への感謝の言葉を述べた。「わたしたちが堅信を受けるために目に見える援助をしてくださった方々、そして目に見えない援助をしてくださった方々」と呼びかけた。

式後、多くの信徒が「本当に家庭的な温かさに満ちた堅信式でした」という感想を述べていた。

(文 カトリック垂水教会)

教区納骨者および死者祈念ミサ



カテドラル地下の納骨堂に献香と灌水を行う様子

11月は死者の月。3日(祝・木)の11時から、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で教区納骨者および死者祈念ミサが行われた。人数制限は行われなかったが、コロナ禍以前の約7割の480人程度が当日参列した。

ミサ説教で主司式の酒井俊弘司教は、悲しみを「読み取る方法」が重要だという教皇フランシスコの言葉を引用し、人生における悲しみの役割と向き合い方について語った。私たちが立ち止まって、神の摂理を受けとめることができるよう、また悲しむ人に寄り添うことができるように、聖母に取り次ぎを願いながらミサがささげられた。

ミサ説教の動画 ▶



ラジオ 信仰の時間

聖母マリアと日本

〈10月2日放送分〉

Sr 戸村晴美

(師イエズス修道会・みなとブロック協力)

カトリック教会では10月を「ロザリオの月」と定め、家庭でも教会でもロザリオの祈りを祈るよう勧められています。この「ロザリオ」という名称はラテン語の「ロザリウム(バラの冠)」に由来するもので、珠を繰り返しながら唱える祈りがバラの花輪を編むような形になるからと言われています。カトリック教会におけるこの伝統的な祈りは「アヴェ・マリアの祈り」を繰り返しながら、イエス・キリストの生涯を黙想するようになっています。ロザリオの祈りは聖母マリアのすべてを想起させる、身近で親しみやすい、聖母に全幅の信頼を置く祈りの一つといえるでしょう。

ロザリオの月にちなんで、日本にまつわる聖母マリアのエピソードをできるだけ年代順に紹介したいと思います。

都の聖母

1549年、聖フランシスコ・ザビエルによって日本にキリストのみことばの種が蒔かれ、その種は成長し、1597年、長崎の西坂の丘で26人が殉教しました。彼らは日本のカトリック教会の初穂といわれます。

1862年、日本ではキリシタン禁令の時代、教皇ピオ9世によりこの26殉教者が聖人の位にあげられました。その頃、フランス東部サン・クロード司教区のレオン・ロバン神父は日本の殉教者の記録を読み、深く感激して日本人のた



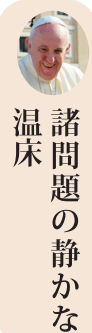
政治(家)が本当に目指すべきものを教皇はこう示されています。

めの祈祷会を起し、日本にキリストの教えを再び伝えるために、教皇から派遣される宣教師が入国できるように祈る運動を始めました。

同神父はザビエルが、聖母に奉獻した聖堂を京都に建てたいと望んでいたことを知り、1864年、ザビエルが日本に携えて来たと言えられる聖母の聖画をもとに6体のブロンズの聖母像を鑄造させました。翌1865年、教皇ピオ9世から祝別を受け、これらを「都の聖母」と命名しました。その中の一体が「京都の市街を見おろす丘に埋めてください」というロバン神父の手紙が添えられ、すでに日本に入国していたパリ外国宣教会の宣教師のもとに届けられました。1873年、同会フランソワ・ポーラン・ヴィグラー神父によって「都の聖母」像は市内を見おろす東山將軍塚に埋められました。その6年後の1879年、京都に赴任したエメ・ヴィリオン神父によって掘り出され、1890年、京都で最初に献堂されたカトリック河原町教会(現京都カテドラル)に安置されました。

ルルドの聖母

フランスの「ルルド」といえば、キリスト教徒でなくてもご存知の方が多いと思います。このルルドでの「聖母マリアの出現」があったのは1858年2月11日、村の14歳の少女ベルナデッタ・スビルーが郊外のマッサビエルの洞窟のそばで薪拾いをしているときのことでした。この聖母の出現の出来事はやがて世界中に広がり、世界各地で「ルルド」が作られるよう



諸問題の静かな温床

第4章「全世界に開かれた心」・第5章「最良の政治」

第4章「全世界に開かれた心」・第5章「最良の政治」の教皇フランシスコならではのキーワードをご紹介します。

キーワードで読み解く

回 兄弟の皆さん

連載第4回(全7回)

酒井俊弘補佐司教

いのちを得るのに支払いはしていません。

わたしたちは無償でいのちを受けました。いのちを得るのに支払いはしていません。だからわたしたちは皆、何ら期待せず、与えることができるのです。

スペイン語版のvecindario(おそらく教皇様自身が使い慣れた言葉の名訳です)。

橋を架ける……働き口を創出する

直接の見返りを求めずに外国人を無償で受け入れることは、当たり前前のことなのです。

向こう三軒両隣

いわゆる下町のようないわゆる「向こう三軒両隣」の精神を生き延びてい

お年寄りが川を渡るのを助ける——それはすばらしい愛のわざで、政治家が橋を架けることもまた愛のわざなのです。食事を差し出すことで他者を助ける人がいれば、政治家はその働き口を創出する——それは崇高な愛のわざであって、

その政治活動を高貴なものとするのです。

どれだけの愛を仕事に注いだらうか

197 数年後、自分の過去を振り返ったときの問いが、「どれほどの人がわたしを認めてくれたらうか。どれほどの人がわたしに投票したらうか……」となっていました。

になりました。

日本人にルルドを伝えた人物

日本にルルドの聖母出現を最初に伝えたのは、1863年に来日したフランスのタルブ・ルルド司教区ガルデール出身のジョゼフ・ロケニューという宣教師です。ガルデールはルルドの隣村であり、彼自身、当時フランスの民心を湧き立たせたルルドの聖母出現について深い関心を持っていました。「どこに行ってもルルドの聖母について語った」と記されています。

来日後、大浦天主堂に赴任し、1865年3月17日、日本の信徒発見に立ち会っています。以降、浦上の秘密聖堂で潜り込み。1867年1月からは毎日浦上を巡回。日曜日のみ大浦天主堂に戻るといって毎日を送っています。1867年7月迫害開始。この時、信徒の家にいた神父は「逃げる！」という声を聴き、裏口から脱出。浦上の谷底の森にしばらく潜伏し、周囲が落ち着いてから大浦に戻ったと記しています。1873年4月キリシタン禁制撤去。帰郷した浦上キリシタンを司牧。1874年、長崎にて補佐司教叙階。1876年、大阪定住。1885年、丹毒を発症し、1月15日、大阪で亡くなりました。

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送

12月担当: 春名昌哉神父

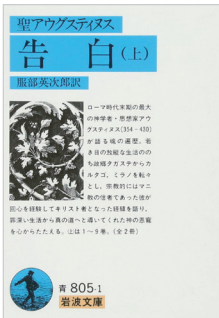
ABCラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3

スマホアプリのradikoでも聴けます。



中野里晃祐助祭から
この一冊

司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、中野里晃祐助祭(コンベンツアル聖フランシスコ修道会、仁川教会司牧実習)が担当。



『告白(上・下)』(アウグスティヌス著、服部栄次郎訳、岩波書店、1976年、税込 上下計1914円)

「外の世界にずっと探していた 真実はいつもこの胸の中 待たせてごめん いつもありがと 会いにくいよ 一つになろう」……これは、藤井風さんの最新曲『Grace』の一節です。自信を持って言うわけではありませんが、邦楽・洋楽問わず音楽音痴の私の鈍い感覚のアンテナにも、なぜかこの最新のヒット曲を受信で

「本当の自分」探しは、青年期の特権ですが、藤井さんの場合、その「本当の自分」探しは、内なる自分の最奥で待っておられた「神様」との出会いという個人的な体験に基づいているようです。そうでなければ、およそ思いつけないような歌です。

この曲を聴いて、私が直感的に思い出したのが、今

次回は、松浦信行神父(梅田ブロック)です。



この本は、自分が限りない「愛」によって愛され、その「愛」が自身の中から泉のように湧き続けているのを確信し、「本当の自分」に出会えた一人の青年の告白録です。

「久しぶりに子どもたちに会って錬成会を行いたい」という気持ちをもって、当日まで青年たちと司祭たちとで準備してきた。子どもたちはアイスブレイキングで仲を深めた後、班に分かれてろうそく作りとホスチア作りを行った。これらは錬成会プログラム最後のミサで使われた。一人ひとり、ろうそくの瓶に絵を描いたり、シールを貼ったり、唯一無二のオリジナルの物を作り、思い出としておうちに持って帰ってもらった。

ホスチア作りでは子どもたちに生地をこねてもらい、普段私たちがいただく小さいサイズや司教・



子どもたちのホスチア作りの作業を見守る

右近とともに歩む会 和歌山地区学習会

歴史画「高山右近の生涯」

10月9日(日)11時半、和歌山紀北教会で福者ユスト高山右近殉教者の生きざまを学ぶ学習会が開かれた。23人が参加。高山右近が一日も早く聖人の位に上げられるよう、列聖祈願の祈りに努めたい。



出前美術館で右近の歩みを知ってもらう

信徒有志グループ「右近とともに歩む会」では、カトリック画家・村田佳代子さんの作品、歴史画『高山右近の生涯』(全10枚)のレプリカのパネルを大阪地区・神戸地区・和歌山地区用に3セット作り、要望があればこちらから出向く「出前美術館」を始めた。

会員の募集もしている。今回の講演では、この歴史画を基に、講演者の榎原宮子さん(今市教会所属)の視点から見た高山右近の生涯について語っていた。右近の高槻城主の頃の姿、利休七哲としての人の関わり、伴天連追放令時の右近、金沢での信仰生活、スペイン総督の歓迎を受けながらのマニラ到着……歴史画一枚一枚を見ながら、右近の軌跡を追った。コロナ禍で教会全体が大幅に活力を失っている中、今一度、右近の信仰と生きざまを学んだ。戦国時代に信仰を守り抜く強さや信念はどこから生まれてくるのか。今一番必要なもの——価値観の多様化する現代の中でどの信仰のあり方につい

て示唆を与えられた。命をかけて信仰をあかした福者の姿を、歴史画を通して表現した村田佳代子画伯の心情も汲み取りながら、右近の霊性を「右近と歩む会」の活動を通じて、今後も学んでいきたい。もう一度熱い気持ちで、皆と共に高山右近列聖祈願の道を歩んでいきたいと思う。

参加者の声

右近の信仰の深さを感じ入った。イエス様の教えを土台とし、生涯をささげた生き方は私たちの手本である。歴史画パネルを見て、福者の生涯を垣間見ることができた。もう一度右近に関する書籍を読み直したいと思う。

(文 右近とともに歩む会)

青年と子どもの錬成会

久しぶりに集まろう!



10月9日(日)8時半、布施教会で3年ぶりの錬成会が行われた。今年の錬成会は日帰りとなったが、子どもたち、青年、司祭たちが同じ空間に集まることができた。テーマは「久しぶりに集まろう!」。

リーダーの感想

空き時間には、班・子ども・青年関係なく「だるまさんが転んだ」や鬼ごっこをして思いっきり楽しんだ。錬成会が始まる前は、1日で子どもたちの仲が深まるかどうか不安だったが(実際子どもたちも初対面が多く、人見知りしていたので)、皆すぐに打ち解けたようで安心した。「錬成会」は、これからも大切にしていきたいと改めて実感できた1日だった。

来年はコロナも収まり、通常の2泊3日の錬成会を行えたらいいなと思います。参加してくれた子どもたちと一緒に準備を行いました。ありがとうございます。

(文 リーダー 田川優香)



世界ではどのようにクリスマスを祝っているのでしょうか。7カ国のクリスマスの様子をご紹介します。

★ベトナム★ 今年10月最終日曜日のミサ後、なみはや教会ベトナム語グループの青年たちがリーダーの家に集まり、クリスマスが話題になりました。そこで例年のように教会の庭に馬小屋を作る段取りを話し合いました。『天のいと高きところには神に栄光あれ……』の看板を日本語とベトナム語で表記し馬小屋に飾りたい」と声が出れば、「わたしの手配する」と手が上がります。こうして、ベトナムで伝統になっている教会の馬小屋づくりは脈々と受け継がれています。



★ブラジル★ 南半球ブラジルのクリスマスは真夏です。日本のお正月感覚で家族が集まりお祝いします。雪景色とは無縁で、サーフィンをするサンタクロースの絵や人形なども見かけます。クリスマスで欠かせないのは「パネトーネ」というイタリア文化由来のパンケーキです。メイン・ディッシュは、七面鳥やチキンの丸焼きです。お腹の部分にピラフを詰めたり、マンジオッカ(キャサバの粉)を詰めたりします。袋詰めにした内臓や足が入っていることもあります。これは日本人にはちょっとなじみが薄いです。また、「テンデル」といわれる豚肉の加工品もなじみです。



★インドネシア★ インドネシアのクリスマスは24日の夜のミサに家族で行きます。毎年、たくさんの人たちが教会に行ってお祝いします。以前、イスラム教徒が教会に向けて爆弾を投げたことがあり、警察が教会の周りで警護しています。80%がイスラム教徒なので、地域によってはとても厳しい目が向けられています。クッキーを焼いたり、みんなで集まってプレゼント交換をします。

★ドイツ★ ドイツでは、クリスマスの前に靴を綺麗に磨いてから中にトナカイが食べられるように草を入れ、クリスマスツリー一番下に置きます。トナカイが草を食べた後、サンタがプレゼントを入れてくれるのです。アドベントカレンダーの種類が多く、子どもたちはワクワクしながら一日一日クリスマスが来るのを楽しみにめぐります。

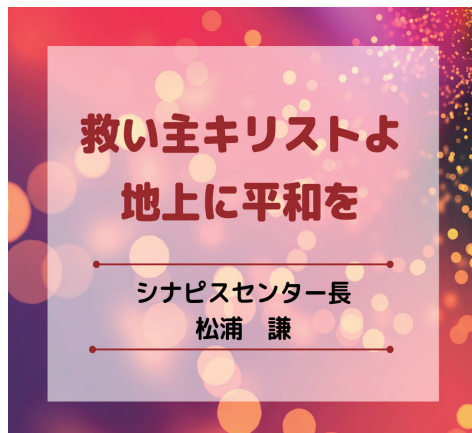


★ポルトガル★ ポルトガルでは家族で祝うことが多いです。クリスマスイブの夕食に集まり、伝統的なタラ料理を食べます。デザートには、砂糖漬けやドライフルーツが一杯入ったケーキ(ポロ・レイ)やカステラなど甘いものは欠かせません。多くの家族はプレゼピオを飾ります。イエス様が生まれた場面を再現、特徴としてポルトガルの日常の生活の風景やお祭りのような雰囲気を作ることによって、イエス様が私たちのところに生まれた喜びを表します。クリスマスの朝は子どもたちがプレゼントをプレゼピオの前に探しに来ます。サンタさんではなく、赤ん坊のイエス様からもらうことを信じています。イエス様の誕生の喜びと新年の祝福を祈って人びとが「フェリシユ・ナタレ」と挨拶し、感謝と希望のうちにクリスマスと新年を祝います。



★韓国★ 韓国では宗教があろうがなかろうが関係なく、すべての人たちが楽しむ年末のイベントという感じです。アジアの殆どの国は、キリスト教文化圏ではないので人びとが一般的なクリスマスを楽しみ、その日を休日と決めて仕事を休んだりしません。しかし、韓国は東アジアで唯一クリスマス当日の12月25日を祝日と指定した国です。公休日ではありますが、他の祝日のように政府で特別な行事はしません。

2022年も残すところあと1か月足らずとなりました。振り返ると、人間に深い悲しみと苦しみをもたらす出来事が地球規模で起こり続けています。ウクライナ



は、イエスの誕生を祝います。歴史的には、それは今から約2030年くらい前のパレスチナの村での出来事でした。普通、誰かの誕生日はその人

イナを初めとする各地の戦争と破壊、繰り返される流血と暴力、私たちの生活に甚大な影響をもたらす、おびただしい犠牲者を生んだコロナウイルス感染症。パンデミック、気候危機により激化する災害などです。

そのような中で間もなくわたしたちは、イエスの誕生を祝います。歴史的には、それは今から約2030年くらい前のパレスチナの村での出来事でした。普通、誰かの誕生日はその人

が亡くなればもう祝いません。でもクリスマスは違います。イエスは決して過去の人でない。今もこれからも「人類家族の一員」として、ずっとわたしたちと共にいてくださるお方です。だからこそ今も世界中でお祝いするので。神様は人間の苦悩を受け止められました。「愛」という漢字には「心」という字が真中にあります。そのほかの部分は前に進めない様子を表す象形文字だそうです。つまり相手のことで自分の心がいつばいで、苦しいありさまを指すともいえます。沖縄のことばに

「肝(ちむぐ)苦(くる)りさ」「肝(ちむぐ)がな(な)さ」という表現があります。胸を突かれ、はらわたが痛むような状態を指すようですが、愛とはそのような心です。それこそがわたしたち人間の苦しみ悲しみに心を痛め、決して無関心でいられない神様の心です。いくししみと憐れみに満ちた神様の御独り子イエス・キリストを送ってくださいまし

た。イエスがベツレヘムで誕生した時、野宿していた羊飼いたちに天使が現れていました。「恐れるな、わたしは、民全体に与えらるる大きな喜びを告げる。今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになつた」(ルカ2:10-11)。地上に平和をもたらす方はこの方をおいて他にはいません。降誕祭を迎える今、救い主であるイエス様に向かい、地上に真の平和をお与えくださいと祈りましょう。

★コンゴ民主共和国★



人口の85%以上がキリスト者で、クリスマスは家族の中で特に子どもたちを中心に家族一緒に幼子イエスの誕生を祝います。経済的な状況によって両親は子どもたちにプレゼントを贈ります。服、お菓子、チョコレートなど。大きな町では広場で光輝く大きなクリスマスツリーを飾ります。オーケストラによる音楽が流れ、クリスマスの歌が響きます。教会では主の降誕の礼拝が行われます。

Form for donation ticket and receipt. Includes fields for amount (00960761419), recipient (Catholic Osaka Archdiocese Synapsis), and contact information.

世界平和に向けて

この一年間、世界で起きた出来事に目を向け、希望の光を届けられるよう、毎月具体的なテーマに沿ってオンラインによる祈りの集いを開催しました。



アフガニスタン政権崩壊、タリバンが復権、私たちの支援がはじまる



駐留米軍の撤退により再びタリバンがアフガニスタン全土を掌握し始め、現地からは悲痛な助けを求める声がシナピスに届き始める。外務省、在外日本大使館へ救出を求めて連絡を取り始める。アリさん一家、ロキアさん一家を含む5家族の支援を始める。



政府機関、銀行、商店などがすべて閉まり、夜になるとタリバンが女性や子どもを誘拐する事件が多発し、私たちが支援している家族は命の危険を感じ国外へ避難することを模索し始める。隣国イランや、パキスタン入国を目指しパスポート取得やビザ取得に奔走する。日本では引き続き外務省に退避者として取り扱ってもらえるよう日々電話相談をする。

アフガニスタンの人々のいのちが守られ平和が来るように祈りの集いを始める

集いの当日は偶然にも米軍がタリバンを攻撃するきっかけとなった2001年N.Y.同時多発テロ9.11から20年後の9月11日だった。国内外から多くの参加者と一緒アフガニスタンの人びとのために祈りをささげた。

10月 アフガニスタン人の声を聞く

20年前実際にタリバンの恐怖を体験した方の証言を聞き、恐怖の中で生活しているアフガニスタンの人びとが希望を見失わないように祈りをささげた。

11月 死者の月

シナピスと関わりがあったアフガニスタンで犠牲になられた方のお名前を読み上げ犠牲者一人一人を思い浮かべて祈りをささげた。

オミクロン株蔓延・新規外国人入国停止

隣国イランやパキスタンへ短期滞在ビザで退避していたアフガニスタン人家族から「ビザが切れてしまう、助けて欲しい」と連絡が入り始める。日本側でも外務省や在外公館の助けによりビザ発給の可能性が見えてきた矢先、オミクロン株蔓延防止のための政府水際対策で11月30日から新規外国人の入国が停止されてしまう。

12月 平和を願う

フリージャーナリストの西谷文和さんがアフガニスタン現地通訳を通して入手した写真や動画で現状を伝えてくれる。引き続き現地や退避国で助けを待っているアフガニスタン人の人びとが希望を見失わないように祈りをささげた。

1月 宗教を超えて祈る

アフガニスタンの人を思い、イスラム教の祈り「分け隔てなく宗教に関わらず、世界のどこにいても神は私たちを守り平和に導いてくださる」という内容のコーランをささげてもらった。

2月 病者のために祈る

猛威を振るう新型コロナウイルス感染症に罹患した方の話を聞き、世界中の病者、医療従事者、そのご家族のため、そしてみんなのいのちと平和が守られるよう祈りをささげた。

ロシアがウクライナへ軍事侵攻

2月24日、ロシアがウクライナへ軍事侵攻を開始する。この日から、居てもたってもいられないという方々から祈りをささげたいという声が届き始める。

停戦を願い祈る

200人以上の海外や日本国内の人びととウクライナのため、世界中で戦争によって苦しむ人びとのためにスペイン語、英語、日本語の3か国語で祈りをささげた。



学びと祈りの集い

軍事侵攻、疫病、自然災害など社会で起こる出来事に向き合って正しく学び、平和な社会を実現させるための知恵と行動する力を願い求め祈りをささげた。

ロキアさん シナピススタッフとして始動

関東在住アフガニスタン人のための相談支援活動を始める。

6月 本土復帰50年の沖縄を思う

辺野古新基地建設問題、遺骨土留問題、沖縄の平和に関する思いを宗教、年齢、地域を超えて分かち合い祈った。

7月 みことばから平和を考える

平和の作り手になるとはどのようなことか、またそうなるために願い祈りをささげた。

9月 いのちに向き合う

科学が進歩する今日の私たちの「いのち」のあり方を考え祈り、聖歌を歌い、神を賛美した。

10月 人類の一致を願って

ロザリオの祈りをささげた。諦めずに聖母により頼むことを教えられた。



3月 東北へ思いをはせる

東北、東日本大震災の被災者のために祈りをささげる。11年前に起こった大震災は引き続き私たちが主体的に取り組んでいくべき社会問題であることを再確認する。

アフガニスタン人家族、来日

パキスタンで避難生活を送っていたロキアさん一家に日本のビザが発給され、家族4人で来日。日本国内支援を始める。

4月 十字架の道行き

十字架の道行きをテーマに、十四留の黙想をイエス・キリストの受難の生涯に合わせ現代社会における意向で祈りをささげた。

5月 聖母マリアにより頼む

戦争、災害、疫病で苦しむ人のために聖母マリアの取次ぎを願いロザリオの祈りを英語と日本語でささげた。



辺野古海上での抗議活動

8月 平和旬間に祈る

教皇ヨハネ・パウロ2世の平和アピールを広島教区司祭と一緒に味わう。「平和を宣教する人であるべき」という意味を分かち合った。

11月 死者のために祈る

この一年間の出来事を振り返り、亡くなった方、またご遺族のために祈りをささげた。

↓ キ リ ト リ 線 (下記の破線で切り取ってご使用ください) ↓

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意

この払込書は、機械で処理しますので、口座番号及び金額を記入する際は、枠内に丁寧に記入してください。

また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

(郵政事業庁)

この払込取扱票の裏面には、何も記載しないでください。

シナピスでは毎月ニュースを発行しています。

シナピスの活動は皆様のご寄付で運営しています。活動の内容は是非ニュースをご覧ください。

シナピスニュースご希望の方は、こちらまで

TEL : 06-6942-1784
 FAX : 06-6920-2203
 E-mail : sinapis@osaka.catholic.jp
 * ホームページ
<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

無料



聞かせてください 神さまと出会った時のこと 〜エマオへの道で〜

第1回 竹延真治神父(クラレチアン修道会)

大阪河内の養豚場経営の家に生まれる。母は熱心なカトリック。父は無神論者。そんな環境の中、神の存在について揺れ動いて育ちました。

大学の獣医学科を卒業後、立派な経営者となるようにと、父の勧めでアメリカへ農業研修に行くことに。ミズーリ州の農家に配属され、養豚部門を一人で任せられた。自分の知識と経験を活かし、最初はとても喜ばれましたが、20年ぶりの熱波により、豚がバタバタ死んでしまった。ポストも喧嘩し、農場をクビになりました。自分のプライドが傷つけられる恥ずかしい経験でした。

次の派遣先が決まるまで居候させてもらった農場に日本人研修生が置き残した聖書があり、久々に読んでみると、どこを読んでも「ここに書かれてあることは何一つ間違っていない」と感じ、涙があふれました。初めて大きな挫折を体験したとき、聖書の言葉が響いたので、雑踏で自分をこまかすことができるし、山に囲まれ安心する。地平線まで見渡せるアメリカの大平原にいて、大地に足がついていない自分に気づき、言いようもない思いに駆られました。ある日、トウモロコシ畑を一人で歩いてみると、突然「確かに

神さまはおられる」という気持ち。それが僕らの神さまとの出会いです。

あなたの過去や、やってきたことではなく、今のありのままのあなたが大好きだ」と、無条件の神さまの愛に気づかせてもらった。私が努力をし、何か成し遂げたときではなく、むしろ一番ひどい状態のとき、神さまは私を一番愛しておられる。弱さだけではなく、罪をおかしたときでさえも、神さまは私を抱きしめようとしてくださる。これがキリスト教のメッセージの中心だと思ふ。これを伝えねばならないという思いで神父になりました。伝えきれませんが……。

「あなたは存在するものすべてを愛し、お造りになったものを何一つ嫌われない」(知恵の書11・24)

【10月のお話より抜粋。サクラファミリアでふた月に1回開催中!】

「カテキズムの学び」

第38回 「隣人の妻を欲してはならない」「隣人の財産を欲してはならない」

十戒の解説シリーズは10月26日に最終回を迎え、第9と第10の掟を学びました。講座の様子は上のQRコードから視聴できます。この二つの掟は両方とも心の中の欲望についてで、その欲望を実行に移すことが第6と第7の掟で禁じられています。実行に至らないように、まず欲望と戦うことが示されています。

聖パウロは、「肉」が「霊」に逆らうことを欲望と呼んでいます。それは最初の罪の不従順から来るもので、人間の倫理的機能を乱し、それ自体罪ではないにしても、人間を罪に陥りやすくさせます。……人間とは、もともと霊と肉とが一体となったものなので、人間の中にはある種の緊張があり、「霊」が求めるものと「肉」が求めるものとの間である種の戦いが生じます。(2515-2516番)

下線部にあるように欲望を感じる事が罪であるわけではなく、それに同意することが罪になるということです。聖人たちもまったく欲望がなくなったわけではありません。欲望と戦って勝利をおさめたのが聖人です。私たちが死ぬまで戦う必要があります。この戦いに勝つことによって、私たちは「心の清い人」になることができ、新たな見方ができるのだとカテキズムは教えます。

心の清さを持っていれば、わたしたちはすでにこの世にいるときから、神の立場でものごとを眺め、他人を「隣人」として受け入れることができるようにしていただけるし、自分や他人のからだに聖霊の神殿、神の美の顕現だと認めることができるようにしていただけるのです。(2519番)

質疑応答では「どこまでが欲望で、どこまでが悪魔の誘惑なのか」という質問がありました。確かに悪魔は執拗に人を誘惑しますから、主の祈りで「悪からお救いください」と祈り求めます。アダムとエバが誘惑に負けてしまったのは、蛇から話しかけられて対話に入ってしまったからだと言われます。自分の欲望、あるいは悪魔からの誘惑の最初の瞬間にきっぱりとそれを拒むことによって、心の清さを守っていくことができるでしょう。

(文 酒井俊弘補佐司教)

訃報

Sr 浅田シズカ(大阪聖ヨゼフ宣教修道女会)は10月25日、慢性心不全のため介護老人保健施設 ニューライフガラシアにて帰天。93歳。長崎県出身。奉獻生活73年。



だらけの戦後の荒れ地を開墾して修道院を建てるところから始まり、創立70数年の歩みを共にし、ただ一筋に司教、司祭、神学生のために祈り、奉仕することを喜びとした。深い信仰と大きな希望を持って、聖ヨゼフの精神で謙虚にコツコツ働き生涯を全うした。

Sr 藤井妙子(聖母被昇天修道会)は、10月18日、老衰のためニューライフガラシアにて帰天。90歳。大阪府大市出身。奉獻生活66年。1952年に来日した聖母被昇天修道会の最初の志願者であった。その後、ベールで修練し、初誓願を



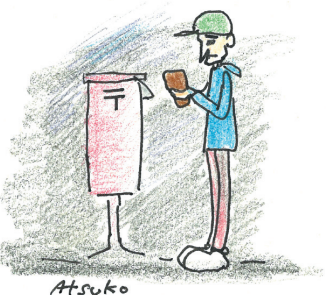
の聖母被昇天学院では中学校高等学校の校長も務めた。また、西成修道院では夜回りや炊き出しにも奉仕した。使徒職を退いてもいつも教会や学院の現在に興味関心を持ち、祈っていた。

「生かす」難民移住者

落としもの

私が「日本で何て良い社会なの」と嬉しくなるとき、それは落とし物にまつわる出来事にあつたときです。ミサ道具一式やスマホを置き忘れた司祭も身近にいましたが、私の経験では、かなりの確率で落とし物は手元に戻ります。

アレックスさんは夜中に財布を拾いました。開けると写真付きの身分証やクレジットカードと6万円が入っていました。彼はそれを



Atsuko

財布を落とした、大切な書類を電車に忘れた、と悲壮な形相で外国人たちがシナピスによくやっています。私たちが警察や鉄道会社に連絡を取ってみると、誰かがちゃんと届けてくれていたと報告が入る率がとても高いのです。外国人は「何て素晴らしい国だ」と天を仰ぎ、私もつられて天を仰ぎます。

家に持ち帰り、現金を抜き取り、私の名刺と自分の名前を財布に貼り付けて、駅前のポストに投函しました。

現金はシナピスに持ってきました。何やっていたんだ、と事情を聴くと「夜中だったからシナピスに電話するのは迷惑。公共のポストなら安全だろうと思いつき、連絡先がわかるようにシナピスの名刺を貼って投函した。現金だけは邪まな人間に盗られてはいけなから抜き取って教会に持ってきた」。

私はアレックスさんが投函したポストへ行き、そこから郵便局を訪ねたところ「名刺などなかったが既に警察に届けました」と言われ、私は6万円を届けに所轄の警察署へ行き、私の名刺と自分の名前を財布の裏面に貼って、駅前のポストに投函しました。数々の警察官に取り囲

まれ、警察手帳を提示され「窃盗容疑につき上階へ」と私は連行されました。確かにアレックスさんの行為は現金を抜き取った時点で泥棒でした。「事件性なし。ブツは落とし主へ」と判断されるまで2時間以上かかりました。私が代理で対応してよかったですと痛感しました。

捕まったときに「違法とは知らなかった」は通用しません。今回の顛末を聞いたある警察官が「落とし物の対処法をヘルシヤ語で教えてくださいよ」と提案してくれましたので近々講座を一席設けようと考えています。(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

大阪教区のカトリック病院

ガラシア病院

特徴的な医療
ホスピス(緩和ケア) 神経内科
リハビリ科 循環器内科
肝臓内科

医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャレン 松本信愛 神父

〒562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎072-729-2345

医療法人ガラシア会

来た見なほ



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第3編:使徒職

日時 12月はお休み
講師 酒井俊弘補佐司教
場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり
問 06-6941-9700
主催 使徒職養成委員会

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をさく

日時 12/5(月) 19:00~20:30(夜の部)・12/6(火) 10:30~12:00(昼の部)※両日とも同じ内容となります
おはなし 高島政行神父

コレーン神父と学ぶ聖書◆ルカ福音書をともに読む~C年ルカ福音書への導入~

日時 第2(月) 13:30~15:00(4~12月開講)
参加費 ¥500

「新生の明日を求めて」読書会◆大阪教区のシノダリティ(ともに歩む)の原点を確認しよう

日時 毎週(月)(第2は休み) 14:00~15:30

担当 松浦信行神父

聖書通読会◆聖書のダイナミックな流れが感じられます

日時 毎週(木) 10:00~11:30
担当 松浦信行神父

「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会◆老いても若きも、キリスト教を理解しよう

日時 毎週(金) 19:00~20:00
担当 松浦信行神父

祈りのよる◆灯りをかこみともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30

問 サクラ ファミリア
06-6225-8871
mf.sacra@osaka.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 次回2023年2/4(土)~2/25(土) 4回 16:30~18:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 0798-22-1649

六甲教会

日時 次回2023年2/4(土)~3/25(土) 8回 17:30~19:00
参加費 ¥10,000(2名)
問 078-851-2846
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会
日時 12/20(火)・12/22(木)・12/23(金) 10:00~15:30
指導 稲葉善章神父(12/20) 染野治雄神父(12/22) 山内十束神父(12/23)
参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会

日時 12/20(火) 17:00~12/21(水) 15:30
指導 稲葉善章神父
参加費 ¥9,000

◆週末黙想会

日時 12/23(金) 17:00~12/24(土) 15:30
指導 染野治雄神父
参加費 ¥9,000

◆聖地エルサレムを学ぶ

日時 ※12月は休講
指導 笹田六合豊修道士
参加費 ¥1,000

◆ギリシャ語で味わう聖書のことば

日時 第1(火) 10:00~12:00
指導 稲葉善章神父

◆カトリック教会のカテキズム

日時 12/7(水)・12/21(水) 10:00~12:00
指導 染野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・第3(水) 10:00~12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家
0797-84-3111

講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 毎月第3(金) 10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
問 岩村 070-5045-7127
主催 神戸国際支縁機構

集い

シナピス主催◆オンライン祈りの集い~世界平和のために祈ろう~

日時 毎月第2木曜日 20:30から30分
テーマ 平和の君の誕生を祝う
参加方法 Zoom(100名まで参加可能)

Zoomミーティング ID:761 071 2034
バークード:123456
主催 社会活動センター・シナピス
問 06-6942-1784
06-6920-2203
sinapis@osaka.catholic.jp
HP https://sinapis.osaka.catholic.jp/

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土) 14:00~16:00
場所 大阪YCWセンター(またはZoom)
問 レネ神父・水元
072-232-8063
osakaycw@gmail.com
HP http://www.ycw.jp/

要約筆記グループ「エッファタ!」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフトcaptionlineを使いパソコンまたはスマホで練習します。
日時 毎月第2(水) 10:00~12:00
場所 教区本部事務局 1階会議室
問 障がい者委員会
dis@osaka.catholic.jp
主催 要約筆記グループ「エッファタ!」

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集いクリスマス会

守秘義務と分かち合いいつ来てもウェルカム当日キャンセルOK
日時 12/18(日) 14:00~16:00
場所 姫里集会所
参加費 ¥500
申込 12月クリスマス会のよしかみ必要、吉川まで
問 078-583-2525
yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時 奇数月・第2(火) 13:30~15:00
場所 姫里集会所
申込 笠松まで
問 090-5661-4324
072-722-0271
kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

マザー・テレサ共労者の集い

日時 第1(土) 14:00
場所 大阪梅田教会
問 高塚 06-6921-0693
姫路・加古川・六甲教会はコロナ禍が収まり次第再開

大東教会 ◆飯盛山麓クリスマスフェスタ
日時 12/18(日) 14:00
第1部: 講演「飯盛城下のおもてなし」講師: 天野忠幸(天理大学准教授)
第2部: コントラバス・ピアノ演奏(下村修・由美子)
問 072-876-5434
玉造教会 ◆クリスマス聖夜の集い
日時 12/24(土) 17:00
内容 ミッションスクールの聖歌隊
問 06-6941-2332
芦屋教会 ◆クリスマスキャロル

日時 12/4(日) 17:00
内容 当教会は信徒が聖歌隊として参加・司祭の祈りのメッセージ
場所 JR芦屋駅北側ペデストリアンデッキ
問 0797-22-3982
主催 芦屋キリスト教協議会(CCA)
尼崎教会 ◆コルス・テレジアによる歌ミサとクリスマスマーケット
日時 12/11(日) 9:15
場所 尼崎教会聖堂・庭
問 06-6481-4235
洲本教会 ◆キャンドルサービス

日時 12/24(土)夜
◆近況交流会・ミニコンサート(有志)
日時 12/25(日) 11:30
場所 ファチマ館(信徒会館)
問 0799-24-5144
六甲教会 ◆クリスマス音楽の集い
日時 12/18(日) 14:30
場所 六甲教会聖堂
問 078-851-2846
和歌山紀北教会 ◆クリスマスキャロルと子どものクリスマス会
日時 12/18(日) 11:30
場所 屋形町聖堂
問 073-425-1069

2022年クリスマス行事

編集後記 「家の事情で聖具を処分しなければならぬのだ、捨てるのは忍びない」の声をこたえて、聖具のレイアウト・サービスを企画しました。イメージは針供養です。一定期間、回収箱を設置してそこに聖具をおいてもらいます。主日ミサ後、感謝の祈りをささげ、ねんごろに供養します。そして、一定期間聖堂に展示しておいて、自由に持ち帰ってよい旨のお知らせを付けました。▼予想外でしたが、出された聖具のほとんどが新しい持ち主に引き取られました。あるご婦人は、「この像、よいですか」と嬉しそうにマリア像を抱いていました。わざわざ献金を置いて行かれる方もいました。▼聖具たちにとっても、新しい働き場が与えられました。(広報委員会 川柳裕明)

ひとりで悩まないで~私たちに聴かせてください~
カトリック大阪大司教区
セクシュアル・ハラスメント
相談窓口
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時~午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は守られます。

司教予定
(下記「行事等日程」以外)
・6~7日(火・水)
臨時司教総会・社会問題勉強会 (+M・+S)
・11日(日)
鈴蘭台教会 待降節黙想会(+S)
†M=前田万葉大司教
†S=酒井俊弘補佐司教

行事等日程
12月
1 木 [常任司教委員会] 30 金 聖家族 (教区本部事務局年末年始休業 2022.12/30~2023.1/4)
4 日 宣教地召命促進の日(献金)
6 火 [臨時司教総会]
7 水 [司教の社会問題勉強会]
8 木 無原罪の聖マリア
14 水 10時 顧問会
25 日 主の降誕
26 月 11時 みことばの祭儀 (教区月修)
2023年 1月
1 日 神の母聖マリア 世界平和の日 (教区本部事務局 2023年始業)
5 木
8 日 主の公現
9 月 主の洗礼